

## 古賀氏液療法ハ化學療法ニ非ラス

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38026">http://hdl.handle.net/2297/38026</a>

クスルコト數回ニ及ビ毎日之ヲ反復ス副尿管ガ單純ノ直營ニシテ且長サ數密米ニ過ギザルトキハ一二日ノ治療ニ依リテ淋菌ハ全ク消滅スルカ或ハ著シク減少シ三四日ノ處置ニテ全癒スルヲ常トス或ハ尙ホ二三日間〇・五%位ノ硝酸銀溶液ヲ注入スルヲ可トスルコトアリ之ニ反シ副尿管ガ迂曲スルカ或ハ長キカ或ハ分岐スルトキハ藥液ノ到達不充分ニシテ容易ニ治療セズ終ニ外科的切除或ハ平流電氣燒灼ヲ必要トスベシ

## 古賀氏液療法ハ化學療法

ニ非ラス

ドクトル 竹中 繁次郎

化學療法トハ何ゾ、蓋シエールリヒ氏ノ唱道ニ系ル、亞砒酸ノ原蟲ヲ撲殺セシムルニ足ルベキ氏ノ實驗ハ、延ヒテ人類體內ニ試ミントセシニ基ク、故ニ化學療法ノ裏面ニハ正シク病原體ヲ殺滅セシムルノ事實ナカルベカラズ。

近時說ヲナスモノアリ、エ氏ハ試驗ニ基キ、彼ノ「サル

ワルサン」ヲ得タリ、故ニ化學療法ナルモノハ廣義ニ於テ試驗ノ上ニ立ツ療法ヲ意味スト、然シ、今日ノ醫學ハ已ニ Experimentelle Wissenschaft (實驗學)ニ屬シ、尙ホ今日ノ醫學的知見ハ悉ク試驗ノ上ニ立ツヲ思ヘバ凡テノ治療法ハ之レ亦化學療法ナラザルベカラズ、故ニ廣義ノ解釋タル化學療法ノ見解ハ暴ノ甚シキモノニアラズシテ何ンゾ。

果シテ然ラバ化學的療法ト藥治的療法トノ區別如何、論ズル迄モナク、化學療法トハ化學品ニヨリテ病原體ヲ殺滅スルニ足ルヲ名ケ、化學品ニヨルモ他ノ方法ニヨリテ説明セラルベキ治療法ハ藥治的療法ト稱スルモノナリ、而シテ其治療作用ノ多數ハ患者ノ身體組織ニ作用シテ治療ノ效果ヲ與フルモノトナス、故ニ時トシテ藥用的療法ハ病原體ヲモ繁殖スルニモ係ハラズ、治療ノ效果ヲ收ムルコトナキニアラズ。

近時ノ問題タル古賀液療法ハ化學療法ナルヤ、藥治的療法ナルヤハ考慮ヲ要スルコト、ナス、世ノ多數ノ人ハ之ヲ化學療法ト唱フルヲ聞ケバナリ、最近發表セラレツ、アル北里研究所講習ノ目錄ヲ見ルニ「結核化學療法、古

賀博士」ト特筆セラレアリ、即チ知ラン、日本第一流ノ學術研究所ヲ自標セル同所ニ於テモ、尙ホ古賀液療法ノ化學療法ヲ信ズルモノ、如シ、故ニ余ハ古賀液療法ノ化學療法ニアラザルヲ論ゼントスルモ所以ナキニアラズ。

余ハ曾テ古賀液ニ付キ、大日本衛生學會ニ於テ其殺菌若クハ發育制止力ノ乏シキヲ論ジ、更ニ東京醫學會ニ於テ中毒及死量ノ關係ヲ公ニセリ、五千倍稠度ニ於ケル該液ハ結核菌ノ發育ヲ防止スルニ足ラズ、僅ニ阻害スルノミナルニ反シテ死量トシテハ家兎體重每基瓦靜脈注射五・五密瓦ナリ、即チ已ニ十萬倍ニ其發育ヲ防止スル他銅鹽假令酒石酸加里銅ノ死量、同、十密瓦ニ比シテ約二倍ノ死量ノ強度ヲ示ス、故ニ古賀氏液ハ高等動物ヲ毒スルコト猛烈ニシテ、結核菌ヲ毒スル力尤モ弱キヲ示ス、此實驗ハフインクレル氏ノ結核化學療法ニ銅鹽若クハ「メチーレン」青ヲ採用セシ思想ニ反スルモノニシテ、古賀液ヲ以テ到底化學療法ヲ遂行シ得ベカラザルヲ示スモノナリ。次ニ古賀液ノ化學療法ヲ遂ゲ得ベキニアラザルハ血中ニ入ルヤ直ニ其成分タル青酸ト銅トニ分離セラル、ニアリ、知ラル、如ク古賀液ナルモノハ第一青酸銅青酸加里

$\text{Cu}_2(\text{ON})_2 + 2\text{KCN}$  ナルハ、結晶、中毒、死量ノ予ノ研究ニヨリテ證明シ得ベキモノニシテ、青酸及銅含有量ノ結核菌發育ノ關係ハ化學療法ノ意ヲ滿タス能ハズ、予ノ試驗ニヨレバ、杏仁水ノ千倍、青酸加里ノ一萬倍ハ尙ホ能ク發育ヲ防止否ナ阻害セズ、銅ノ十萬倍ハ之ヲ防止スルノミ、而シテ第一青酸銅青酸加里ノ重量ノ僅ニ十分ノ四ハ其銅ナルヲ思ヘバ銅鹽トシテノ本劑ハ頗ル愚見ヲ免レズ、殊ニ古賀液ハ古賀氏自ラ「毒性ヲ弱マラシムル方法ヲ與ヘタル青酸加里銅鹽ナリ」ト揚言スルモ、予ガ動物試驗ニ見タル中毒症狀竝ニ死量ノ  $\text{Cu}_2(\text{ON})_2 + 2\text{KCN}$  ニ一致スルノ點ハ特別ナル Manipulation ヲ與ヘタルモノト信ゼラレズ。若シ處置セラレアルモノトセバ其所見ノ無效ヲ喋々スルニ憚カラズ。

第三ニ古賀液ノ化學療法ニ副ハザルノ點ハ其千萬倍ノ稀薄液ハ反テ菌發育ヲ助クルトナスニアリ、今古賀液注射量ヲ見ルニ患者ノ體重ヲ五十基瓦ト假定セバ千萬分ノ一・五乃至三トナル、明カニ菌發育ヲ増加セシムルモノナリ、殊ニ該液ノ生理的作用ヲ考フルヤ、益々藥治療法ト大差ナキヲ信ゼシム、例之バ最近草間博士ノ其作用ニ付

キ論ゼラル、中ニ白血球ノ喰菌現象ヲ舉ゲテ其主要ナルモノトナスガ如キハ其然ルベキヲ信ゼシムルニ足ラン。固ヨリ此喰菌現象ノ疑ハシキハ予ノ百萬倍「チアノクプロル」ヲ用ヒタル「オプソニン」現象ニヨリテ明カナリ、予ハ若シ本液ノ有效ナルモノト假定セバ、矢張り他ノ藥品ノ普通性ニ見ル如キ菌發育ト身體組織ノ抵抗度トノ間ノ差違ニ歸セシメントス。此點モ他品ノ藥治的療法ト何等ノ差ナシ。

以上ノ諸點ヨリ觀察スルモ化學療法トシテノ古賀液ハ思想ノ點ヨリ言ヘバ低劣ナルヲ免レズ、且ツ化學療法ヲ形成セザルコト明カナリ、有體ニ言ヘバ古賀液療法ハ現時各家ノ注目セル化學療法ヲ奇抜ニ附隸セシメタルニ外ナラズ、彼ノ本液作用ノ説明(假説?)ノ朝令暮改ニ徴スルモ或ハ明カナラン、或ハ「結核化學療法古賀博士」ヲ以テ從來ノ傳習ニ從フト稱セラレシモ、學問所トシテノ北里研究所ノ事トシテハ夫レ或ハ如何ン、北里研究所ナルモノ一言答テ可ナリ。

### 一三ノ蛋白質分解酵素ノ

#### 作用ニ就テ

Über die Wirkungen der einigen proteolytischen Enzyme.

醫學士 田村 昌

凡テノ生活体ハ体成分トシテ蛋白質ヲ有セザルナシ、從テ其ノ新陳代謝ニ向テ欠クベカラザル種々ノ酵素作用ハ生物化學研究上最モ重要ナルモノナリ。然レバ古來之ノ方面ノ研究報告ハ多々限りナク存スト雖モ、極メテ複雑ナル構造ヲ有スル蛋白質ヲ材料トスルモノナレバ、其ノ分解酵素ノ作用ニ就テモ尙幾多ノ一致セザル點アリ。故ニ余ハレフレクトメーター (Refraktometer) ヲ使用シテ「ペプレン」「トリプシン」及細菌ノ「カゼアーゼ」ニ就テ試験シタル成績ヲ報告セン

蛋白質分解酵素ハ普通別チテ三種類トス、胃液中ニ存スル「ペプシン」、膵臓ヨリ分泌サル、「トリプシン」、及腸粘膜ノ「エレプシン」トス、之等三種ノ酵素ハ其存在スル臓器、分解スル蛋白質ノ種類、及作用スル場合ノ條件